

# パンタール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2019年11月1日 194号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



長駆1200kmを走破、レダ到着！ 8月17日



受講前後の聖歌。よく揃った声で大迫力。

## 第1回パラグアイ先住民のための40日研修会



講義はグアラニー語。スライドはスペイン語。午後は体験学習と奉仕作業など。



出発前夜、感極まった食事会。9月19日



とにかく熱心で素直な聴講姿勢が印象的。



炊事係が同行。シンプルで飽きない献立。



アキダバンで家路に就く。涙で万歳の連呼。9月20日

今回の40日研修会中  
には、ちょうど第19回  
青年奉仕隊もレダで活  
動し、歴史的な出会い  
を果たしました。また  
出発前夜の食事会には、  
地元の先住民族チャマ  
ココの労働者たちとも  
交流するという、貴重  
な光景もありました。  
翌日の港では、いつ  
までも続きそうな抱擁  
を振り切り、別れる男  
たちの目に涙が見られ  
ました。(9月25日記)

**バエシヤパ！ アグイジェ！**  
**理想家庭を目指し、エネルギー全開！**  
バエシヤパ(こんにちは)！、アグイジェ(ありがとう)！  
グアラニー語のあいさつが明るく飛び交った日々。「第  
1回パラグアイ先住民のための40日研修会」が今、深い  
感動のうちに無事終了しました。参加者は、パラグアイ  
南東部の二つの村の成人男性28名。8月15日にバスで出  
発し、17日、1200km離れたレダに到着しました。教  
育に理想的なレダの施設と環境を利用するためです。  
映画「ミッシェン」にも登場する先住民グアラニー族。  
その故郷でも奥まったコミュニティ Jukryva-Ko'Ejueは、  
交通が極めて不便な村で、四駆車でもアクセスは困難を  
伴います。そのため、現代文明の恩恵も害悪の影響も受  
けにくく、住民たちの性格はとて純朴。アスンシオン  
の教会から出張して1日セミナーを開くと、村のチーフ、  
校長先生をはじめ、多くの家族が参加したといいます。  
その中には片道20km(往復40km!)歩いて参加した家族も。  
理想家庭のための40日研修会が紹介されると、多くの  
家族が参加を熱望しました。妻たちは子供たちと共に村  
に残り、夫たちはレダでの研修に。そして40日研修会の  
終了後に、夫婦そろって再び研修に参加する  
ことになりました。  
今回の40日研修会中  
には、ちょうど第19回  
青年奉仕隊もレダで活  
動し、歴史的な出会い  
を果たしました。また  
出発前夜の食事会には、  
地元の先住民族チャマ  
ココの労働者たちとも  
交流するという、貴重  
な光景もありました。  
翌日の港では、いつ  
までも続きそうな抱擁  
を振り切り、別れる男  
たちの目に涙が見られ  
ました。(9月25日記)



# 第十九回国際協力青年奉仕隊



チャーター船を降り、レダに上陸。9月3日

(本紙193号より続く)

【9月3日】午前7時頃、下船、レダ上陸。午前中、佐野先生からレダプロジェクトについての解説があり、発足の経緯、農牧畜、養殖のビジョンなど、レダプロジェクトの概要を学ぶ時間となりました。

食堂でバイキング形式のお昼をいただいた後、レダ基地内を見学。七面鳥や豚の飼育場、浄水施設、魚肉加工場、エビ養殖場、パクーの養殖池など、レダの広大な敷地内を見て回りながら、担当する先生方や青年たちから説明を聞きました。

夜は、中田先生と岩澤先生から青年奉仕隊員に向けて歓迎の言葉をいただきました。70歳になった現在でも開拓伝道をしておられる中田先生…「手伝ってくれる人、教えてくれる人が誰もいない、それが開拓。ここレダの地は何も知らない人がやったこと、常にこれからだ!」という心情で進んでいくこと、この二つを憶えておいてほしい。皆さんも、将来、世界に出て開拓して行ける人になってほしい。」

【9月4日】開拓体験は、過繁茂するヤシの木を減らす作業。先生方やレダの従業員たちに指導していただきながら、隊員各自が斧を使い、ヤシの木を伐って行きました。その後、

開拓体験で手にマメ。斧は初めて。9月4日



開拓体験で手にマメ。斧は初めて。9月4日



泥田に入ってタロイモの収穫体験。9月4日



養殖池でパクーの水揚げを体験。9月4日

タロイモの収穫とパクーの水揚げを体験。パクーの水揚げは、養殖池の端から端まで大きな網を張り、パクーを対岸まで追い詰めるまで、各隊員がその網を池の中で支えながら前進して行きます。池は背の立たないほど深いところもあるので、ライフジャケットを着用しての作業でした。この日水揚げしたパクーは、何と250匹以上! これらのパクーは冷凍するため、直ちに加工場まで運び、全員で下処理(内臓を取り除き、魚体を水で洗う)を行いました。

【9月5日】レダから約11kmほど北上し、「カナン」へ行きました。カナンは、三、四年前に開拓を始め



カナンの地で爽快地に乗馬体験。9月5日

たばかりの土地。ビクトルさんの家庭が住み、家や牧場の柵を作り、開拓を進めています。家屋の電気はすべて太陽光発電でまかなっているとのこと。その後トラクターに乗って、開拓中のカナン牧場を案内していただきました。トラクターが進む道は、砂埃が舞い、周囲はヤシの木が生い茂り、まさにこれから開拓していく場所なのだというこ



ピラニアが釣れました。9月6日

夕方、日本へ帰る隊員は貨客船アキダバンに乗ってアスンシオンに向かいました。レダの先生方、従業員、先住民グアラニーの方々、中・長期ボランティアとしてレダに残るメンバーが港に立ち、船上の隊員たちを見送りしました。(次面下段に続く)



青年奉仕隊と「パラグアイ先住民のための40日研修会」の合同和動会。9月5日

夜は、パラグアイ先住民の40日研修会と青年奉仕隊合同の和動会。先生方は「ふるさと」の合唱、先住民の皆さんは聖歌の合唱、青年奉仕隊は歌とダンスを披露。佐野先生は「開拓者、青年たち、先住民グアラニーの人たちが一堂に会して、このような場を持てるのは素晴らしいことであり、大変嬉しく思う」と話されていました。

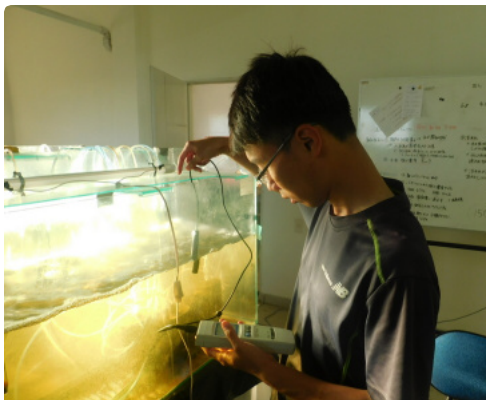
【9月6日】朝一番、ボートに乗って魚釣りに。精誠条件として釣りをされた文先生の足跡を、青年奉仕隊員が辿るひと時となりました。今回の釣りでは、釣った魚の重さや数が多かったチームと、ドラドを釣った一名にプレゼントがありました。

とを体感しました。そしてお昼は、乗馬を体験。カナンの地で、ゆったりとした時間を過ごしました。



# 未体験「初挑戦の連続、エビの養殖研究

友谷将明（とまたにまさあき）君は、本年7月22日から9月6日まで、レダ基地において熱心に奉仕活動に励みました。岡山県岡山市生まれ、23歳、岡山大学経済学部卒。9月3日より第19回青年奉仕隊に合流。以後、妹の莉奈さんと共に、隊員として活動。



エビの研究に没頭する友谷君。8月5日

Q…レダで担当したことは？

A…オニテナガエビの養殖研究です。一緒にレダに来た加藤誠隆君と二人で、前任者の水田展聖君から引き継いで担当しました。

Q…レダで最も苦心したことは？



釣ったパクーを手に。右は加藤君。8月27日

A…孵化直後のゾエアと呼ばれる幼生を、ポストラバーバという稚エビになるまで育てることが、最も大変でした。すべてのことが未体験で何をどうしたらよいのか、全然わからないところから高度に繊細な業務を引き継ぎ、初挑戦の連続でした。水田君が4500匹のゾエアを孵化させた後、20日目から加藤君と二人でそれを育てました。11回の脱皮を経て、稚エビになるまでが、最も難しかったです。折しもレダは冬の季節



養殖池にて、パクーの水揚げ体験。9月4日

と、自然の神秘をこの目で見たことなどです。

Q…将来の抱負をどうぞ。

A…まずは言語の勉強をしたいです。韓国語、英語など。そして言語を活かして事業をすること。例えば、多種多様な人々が集って来て、楽しく飲食や交流ができるような店を経営したいです。

Q…日本の皆様へひと言、何でもどうぞ。

A…皆様、一生に一度はレダに来てみてください！



自然の神秘に触れて。7月29日、友谷君撮影

で、早朝などはかなり冷え込み、飼育槽の水温の管理がとても重要です。今その稚エビが、ようやく2〜3cmにまで育ったところなんです。

Q…レダで最もうれしかったことは？

A…釣りができたこと（パクー16匹、ボガ13匹など）と、空がとても大きいこ

第19回国際協力青年奉仕隊（前ページより続く）

【9月7日】（これより友谷莉奈さんのメモ）ブラジルのマルチニョでピーター・パウロお兄さんとお別れ。バジェミで下船。バスでアスンシオンに移動。【9月8日】朝6時から、アスンシオン教会の青年たちと訓読会をし、新しい一日を出発しました。日



世界自然遺産イグアスの滝を目の前に。9月9日

曜礼拝後、歓迎会を開いて下さり、礼拝に集まった皆さんと共に昼食。歌ったりダンスをしたりと楽しい時間を過ごしました！昼食の後は、パラグアイの青年たちとサッカーの試合。得意な人もそうでない人も、みんなが楽しくサッカーをすることができました！国境や文化、言葉は真の愛によって乗り越えることができると実感しました。



アスンシオンでABC新聞社を訪問。9月10日

【9月9日】夜行バスと普通の路線バスを乗り継いでイグアスの滝に。言葉が出ないほどの絶景！！鳥の公園では、様々な種類の動物を見ました。神様が人間に与えてくださった万物を通して、神様の偉大な愛を感じました。【9月10日】午前中、ABC新聞社を表敬訪問し、記者からインタビューを受けました。午後は楽しくおみやげショッピング。最後にレストランで夕食と反省会をしました。【9月11日】13時35分、たくさん思い出を胸に、日本へと旅立ちました。



**第二十六回環境問題研究会セミナーを開催**  
 九月二十一日(土)、午後一時半から午後四時すぎまで、川崎市高津区にある大山街道ふるさと館で、第二十六回環境問題研究会委員会セミナーが行われました。(詳細は別紙で後日報告)

地球温暖化問題の専門家で、IPCC(気候変動に



「卒炭素」を訴える江守正多先生

関する政府間パネル)での第五次評価報告書の主執筆者でもありました。江守正多先生をお招きして、「地球温暖化リスクと『卒炭素』への道」と題して、お話を伺いました。江守先生は、テレビ出演も多く、分かりやすい解説は定評で、一年半前にもセミナーを担当していたいただきました。



第26回環境セミナー・熱心に参加してきた人々

「脱炭素」ではなく、「卒炭素」として、科学の進歩など革新的技術や社会構造の改革をしながら、炭酸ガス排出ゼロを目指すものです。パリ協定で気温上昇を2℃に抑えるための様々な取り組みがなされましたが、1℃上昇しただけでも、多くの気候変動リスクがあるのです。二〇四〇年までに気温上昇を抑えられようにはしなければなりません。

**ブラジルの今年は森林火災が特に多い**  
 ブラジル国立宇宙研究所(INPE)によると、「同国ではアマゾン地域を中心に、森林火災の発生件数が二〇一八年の同時期と比べて八五%増加している。INPEの人工衛星データによると、今年一〜八月二十一日の間に七万五〇〇〇件以上の森林火災が発生し、二〇一三年の観測開始以降で最大を記録。昨年の同期間の三万九千七百五十九件を大きく上回っている。」との報告がされています。



地球の肺と言われてきた熱帯のアマゾン熱帯雨林地帯が、七万カ所以上に火災が発生。(上写真・アマゾン火災)  
 火災により、森の緑が失われ、水蒸気、蒸散作用が少なくなり、雨量の減少につながり、ついには砂漠化に至るのではと、専門家は警鐘を鳴らしています。

「周辺地域もパンタナールの自然が残る広大な森が連なっていますが、夜になると各所で森林火災が発生し赤々と燃えています。そのために、昼間も風向きによって煙がかたなびき、カスミがかかったように漂っている状態です。(上山貞和さんからの報告)

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

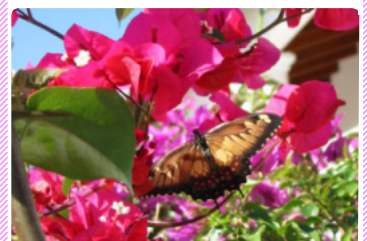
00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

## お便り募集



アゲハ蝶とブーゲンビリア

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしております。宛て先は、当会 office@asd-nsa.com へお願いします。